

はじめに

スクールカウンセラーの学校派遣は平成7年度に調査研究事業として始まり、平成13年度からは国の補助事業として位置づけられ、生徒指導上の課題解決、不登校等への支援を目的として、スクールカウンセラーの配置が拡充されてきました。高知県教育委員会でも、平成15年3月に学校や教育委員会がスクールカウンセラーを効果的に活用するためのスクールカウンセラーガイドブックを作成し、スクールカウンセラーの活用を図ってきました。さらに、児童生徒や学校の多様なニーズに対応するために、平成28年度からは、県内全ての公立学校にスクールカウンセラーを配置してきました。

しかし、その後も、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化してきており、いじめ、不登校、児童虐待の増加やヤングケアラーなどの多岐に渡る課題への対応が求められるようになっていきます。そのことに伴い、子どもや学校教育に関連する法令なども次々と整備されてきました。昨年改訂された生徒指導提要では、課題解決型の対応に加え、子どもの発達を支えることや課題予防的な未然防止の生徒指導の重要性が明記されました。

そのため、心理の専門職であるスクールカウンセラーに求められる役割も変化しており、学校もスクールカウンセラーをより効果的に活用し、様々な課題を抱える子どもたちへの対応だけでなく、すべての子どもに対する予防的な取組も求められるようになりました。

このような背景から、スクールカウンセラー活用のための新たな指針を示すことを目的に、スクールカウンセラースーパーバイザー4名の皆様方にもご協力をいただき、ガイドブックの改訂をすすめてきました。

当ガイドブックは、相談支援体制を充実させるための環境づくりやスクールカウンセラーコーディネーターの役割、スクールカウンセラーの役割を理解するための基本姿勢や基本業務等を掲載しており、学校や教育委員会はもちろんのこと、スクールカウンセラーにも参考にしていただきたい内容となっています。

当ガイドブックが活用され、スクールカウンセラーの活動が、子どもたちの健やかに成長に寄与できることを願っています。

高知県教育委員会事務局
人権教育・児童生徒課長